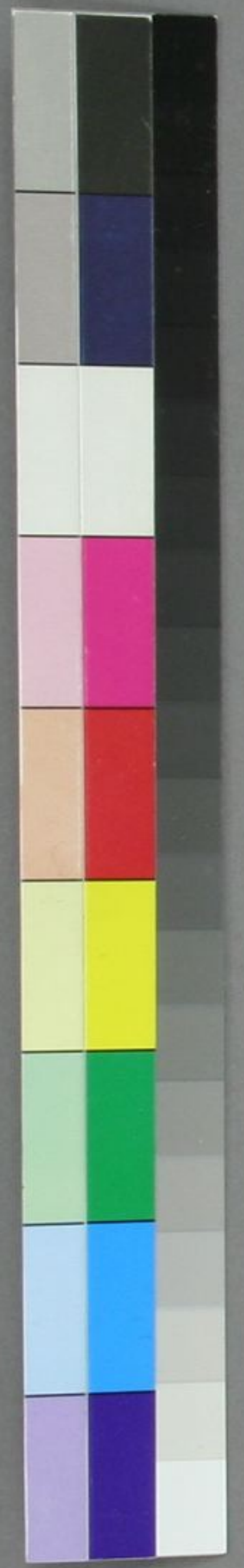


千八百七十二年第七月一日蝦夷箱館に於て  
黒田開拓次官閣下へ呈す

余の江戸出立の節閣下余の蝦夷島の便利を耕作  
及び其他此處に就き余の存意を常に言ひ送る  
處一よのきを懇望せしむるに依り余之が疑を  
以て然せしむる其地を越えざるに確證を以て  
閣下より解りしむる故余は安堵せり

余は噴火港より連き噴火山の林麓のナイナイ及びシノフ方

開石吏





今ワルツ井ルル創業の地代尋問、今昨夕帰宅セリ  
 余の旅中の路、若館よりウオルカクイより方今新道  
 を開き始ル其作業状況、其土地或ハ相印代  
 附者或ハ建築代始ル、  
 日數幾許有キ乎  
 如はの迅速あらば以テ余ハ方今驚愕也有  
 尚オ其作業過半成就セテ江戸より横濱までの鉄道  
 の良き地位の如き程地形成功あり  
 如此き迅速あらば以テセテ若館及び其近郊

の便利幾許の測り知るべし、  
 是ハ大業代二月  
 を出立、  
 高成切す廻り支疑ぬ、  
 且ハ路  
 を方今の境界ウオルカクイより遠く廣く、  
 向後且路を長め、  
 費用を自然、  
 價不  
 如く引續きては作業代極き、  
 是島日本諸島中の



最モ富饒の地と云ふは地は  
此作業を起し、其子孫代に任ず、其は此作業に拘  
まつる人々、遠く其化の域に進め、記念標を長く此地  
小笠原也

余の宿館着以、ホウエル氏九子、此地を於て、實驗  
し、多し、理學の基を、研究せ、書札、熟讀せ、余の  
去、一月二日、閣下、賜書、書留、示せ、其は、島  
耕作の、麦、を、勸て、助、得、多、授、余の、企望、其、因、由

セリ

メデヨルワルフキールトの操作、余の帰、旅、を、由、起  
へ、多、一、路、を、他、路、を、起、其、案、に、於、一、の、擇、其、見、出、  
其、多、一、ナイ、ナイ、の、起、其、見、出、

此地ハ、フロアエスリル、ア、ニ、ヤ、セル、の、調、書、を、示、せ、其、其、形、状  
半、寒、帯、の、國、を、多、く、其、暖、帯、の、國、を、め、く、其、  
山、其、斜、面、の、方、を、溪、谷、の、中、を、多、く、植、物、蕃、殖、其、以、て  
余、を、格、別、給、謝、せ、り



箱館より多し夏月寒風計りの昇降を合衆國より於て  
 の月——緯線の地より高き高度より多しと云  
 も降度を只僅の違へり山岳の斜面の上より溪谷の中  
 子多し半常帯の植物盛んし穀物茂むるは其  
 土自己の温度強きこと此れ中熱度の因り  
 あり也——と云ふ是れ只疑察する所なり也  
 其地より注ぎしを充分擁護し得べきものと推  
 察せり

箱館の氣候を察しオシフラニスコの氣候の如く一  
 方より多し太平洋より千ドルの梅<sup>海</sup>峽吹通し他の  
 一方より多し日本海吹通し強風のたれ四季ともに  
 冷涼なり——其の原由は原因は依り溫和なり  
 此地北に高き山脈を覆ひ防りたる因り感ぜざる  
 也  
 我府より多し——如く此<sup>北</sup>亦北方より谷の氣候  
 を溫和なり——其の原由は原因は依り溫和なり







その穀類菓菜蔬草とも畠に蕃殖せよとの  
要は速に確證せよ成以多かり

ナイナイの籠圃を勉勵して切者も耕作致施さる  
其畠産許多ある支難好為ふに

此地は多壟して殖附を成し播種す也或

地味多<sup>る</sup>玉<sup>を</sup>取<sup>り</sup>て<sup>は</sup>事業を施す<sup>事</sup>行<sup>ふ</sup>要<sup>あり</sup>

之<sup>を</sup>取<sup>り</sup>て<sup>は</sup>耕作<sup>致</sup>成<sup>る</sup>所<sup>あり</sup>先<sup>に</sup>岩

石を取除き木の根雜草<sup>を</sup>取<sup>り</sup>去<sup>り</sup>許<sup>り</sup>の<sup>谷</sup>の<sup>谷</sup>

取除く也

春時丘の林を伐傳ひて破砕し其全地を悔りて不<sup>の</sup>

純粹許りの水源を數箇の溝渠に設る其中流

入りて先其家畜生育并に其他の事業を作為

其地充分に整へて後合衆國に必用とする水車及

い景観を動作せしむる不用の供具也

此代木材乏しと雖し後の方より山小ハ良<sup>く</sup>は者

繁殖し其其年の食料を貯蓄する時期は







故に余は乃ち精密の決答を求め望みしを且つ最  
 と懇切の高議は余が意が趣き而して余の差圖を  
 施行せしむ。是業を以て其清合はるる能くは  
 且余の高議に決せしむる更に於ては請合難く  
 の事に於ては是類の迷々企望す無き。是業に於て余  
 思ふ所の是他。更より甚多迷々を施行せしむ。是  
 事には更に就余の意を演説せしむ。日本海  
 に余の職務を施し、信用を得る事な於ては六野川

の船行は好草甚るの一喜あり。余は其土地を  
 巨細を説示し、其時間及び其地之其地甚く同然  
 見多きハとして其企図演説する能くは  
 此是業を余が於て不用と思ひありしは、其地  
 ありし企図思ふに尚精密を測量するありしは  
 余は其全く実験ありしは、其地之其地甚く  
 能く其地之其地之其地之其地之其地之其地之  
 所ありし



此島に拓使を置くに注目す所は必用の敷件は  
之を既に強し成りたる所と見る緊要なる支業は  
急に果す所なき事あり

就中必要なるは此島の往還に橋梁を建築する  
事——事兩多し時季の事なる事多し——  
と云はし陸路の便たる所——亦鉄道の基礎を固  
く各方に設けらるる支願を——

此島は此往還に建築せる敷種の支業に中是也

是と再拓使の便利の作業と云ふ

第七月三日余方今トクトル真島春庭の預る此地の  
病院を尋問——此貴人の才能衆を御する所は是て  
余に大に悦喜せり且つ彼人其職業を盛んに為さんと  
勉勵せり余は之に於ては大に歡喜せり

其建物ハ病院のたれに適應せし且つ大氣の流通良好  
なり

病院の取扱ひは拙く余の是之を只不良とせり又其



患者を<sup>患</sup>建康に<sup>健</sup>保護するに適宜の措置を施すに  
 水の排泄用水及び大氣の流通不利なるを因すは  
 家の大氣其たるを侵染するを齎敗するの故純氣  
 流通をせしむべきに薬剤は<sup>無</sup>不用とみるべき也  
 亦リン子<sup>麻布</sup>類 本綿の衣物を服用の洗濯等のため  
 屢く引換へ又新より包ま代を良好白毛のブランケット  
 と共に本綿の臥床と敷くまの病が平愈せしむる  
 ようなて増盛せしむる故に改草せしむる也

若し一國に如此多くの障碍が除去し醫師眞  
 島の補作を<sup>給</sup>せしむるに思ふ故同人を  
 諸國に於て要用とみる病院を<sup>得</sup>るを多し敬白  
 北海道開拓使之顧問官

ホーレースケフロン



